

## 第2回 学期制の在り方懇談会 会議録

- 1 日 時：平成28年12月21日（水）午後7時から
- 2 場 所：役場2階201会議室
- 3 出席者：中学校長代表、小・中学校教頭代表、小・中学校教務主任  
小・中学校PTA会長・教育委員会事務局（教育部長・総括指導主事・  
学校教育課長・担当指導主事）
- 4 傍聴者 2名
- 5 内 容
  - ①教育長挨拶
  - ②事務局からの報告（第1回会議録）
  - ③各校からの報告（要旨）
    - ・全校を対象にアンケートを実施した。全体としては3学期制が良いという意見が多かった。
    - ・子どもにとっては、テスト範囲が広がることや夏休み明けの定期テストなど、大きな負担となっている。そのため、3学期制が良い。
    - ・2学期制を導入している市町村も3学期制に戻しているところが多い。そのことを考えるとメリットは少ないと思う。
    - ・長期休みを区切りとする3学期制が望ましい。
    - ・小学校と中学校で学期が異なるのはおかしい。
    - ・子どもにとっては、季節感は大切である。
    - ・2学期制の場合、苦手教科を克服しないまま夏休みを迎え、そのまま休みを過ごして、夏休み明けのテストでは、その状態で受けることになり、点数が悪くなる。結果的には、学力低下に繋がっている。
    - ・せっかく2学期制のペースをつかんだのに、変えることはいかかなものかと思う。
    - ・中3の生徒にとっては、2学期制の場合の夏休みは、受験勉強、夏休みの宿題、定期テストの勉強があり、大変な状況である。
    - ・子どもは2学期制が良い。テストが少なく喜んでいる。夏休み前は部活に集中できる。
    - ・3学期制ではテストの回数が多いので、一度失敗しても回復できる。
    - ・学校としては、2学期制のメリットは十分に発揮できている。
    - ・短いスパンで子どもを見ていく必要がある。小学校・中学校とも3学期制が良い。
    - ・季節感を重視するのなら、9月1日始まりが良い。授業時数を確保するのなら、夏休みの短縮（通常の9月始まりを少し早める）は必要である。
    - ・小学校の水泳授業の関係で考えると、夏休みの始まりを遅くして、終わりを後ろにずらす方が良い。
    - ・授業時数より、学習内容をレベルアップすることにより、時数を増やす必要はないと思う。
- 6 今回の総意として
  - ・学期制については、中学校3学期制が望ましいという意見が多かった。
  - ・中学校の夏休みを短縮して授業を早め目に始めることについては、多様な意見があり、事務局としては、学校側の意見を尊重しつつ、総合的に考えていきたい。
- 7 今後の方向
  - ・第3回目の懇談会では、パブリックコメントで出された意見を報告し、懇談会としての考えをまとめる。
- 8 その他  
次回開催予定 2月下旬 又は 3月上旬予定